

## 論文審査の要旨 (甲)

申請者領域・分野 氏名	病態制御領域 内分泌代謝内科学教育研究分野 氏名:大高 英之
指導教授氏名	大門 眞
論文審査担当者	主 査 萱場 広之 副 査 中村 和彦 副 査 佐々木 賀広
<p>(論文題目)</p> <p>Association between insomnia and personality traits among Japanese patients with type 2 diabetes mellitus (日本人の 2 型糖尿病患者における睡眠障害と性格との関連性について)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本論文は、2 型糖尿病患者群 (504 名、男性 293 名/女性 211 名、年齢 <math>63.9 \pm 12.5</math> 歳) における睡眠障害と患者のパーソナリティー (抑うつ) の関連、およびそれに関連するリスク因子の分析を行ったものである。睡眠障害の評価には、睡眠の質、入眠時間、睡眠時間、睡眠効率、睡眠困難、睡眠薬の使用、日中覚醒困難の 7 要素をスコア化した Pittsburgh Sleep Quality Index (PSQI) を、性格検査は Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) を、抑うつの評価には Center for Epidemiologic Studies-Depression scale (CES-D) をそれぞれ用いており、客観評価が行われている。その他の因子には、年齢、性別、BMI、HbA1c、生活歴 (喫煙歴、飲酒歴、独居、運動習慣の有無) が選択され、患者の生活スタイルと深くかかわる因子について検討が行われた。検討の結果、下記の所見が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2 型糖尿病症例 504 名のうち 154 名 (30.6%) に睡眠障害が合併していた。</li> <li>2. 女性、独居者、BMI 高値例において、有意に睡眠障害を合併する頻度が高かった。</li> <li>3. 性格検査においては、神経症傾向が高いと睡眠障害を合併する頻度が高かった。</li> <li>4. 抑うつによって睡眠障害を合併する頻度が高く、睡眠の質、入眠時間、睡眠時間、睡眠効率、睡眠困難、日中覚醒困難の 6 つの要素に関連を認めた。</li> <li>5. HbA1c、喫煙や飲酒、運動習慣などの生活歴と睡眠障害の関連は認めなかった。</li> </ol> <p>本論文によって、日本人の 2 型糖尿病患者では睡眠障害の合併頻度が高く、その一因として性別、肥満、抑うつ、個々の性格も関与することが示唆され、性格を含めた心理状態、その心理状態などに至った原因などに配慮した糖尿病診療の必要性が客観データとともに示された。</p> <p>以上より、本論文は学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Journal of Diabetes Investigation 2018 ; doi:10.1111/jdi.12927

※論文題目が英文の場合は ( ) 内に和訳を付記する。

※論文審査の要旨は 900 字程度で本ページ 1 枚以内とする。

※論文審査の要旨の最後には、～「学位授与に値する。」と記入する。